

## トピックス①

ダミオン・ヴィンセント・キーオン、ロンドン大学 名誉教授による基調講演



## ASEANの多文化共生に着目

今年のテーマ「仏教と世界の危機」にそってロンドン大学のダミアン・キーオン名誉教授が基調講演。平和構築や地球温暖化といった今日的課題に対する仏教の可能性などを述べたが、ASEAN（東南アジア諸国連合）についても論究した。分科会のテーマの一つが「仏教とASEAN共同体」であることを念頭に、「1967年に枠組みが設定され、共通したビジョンのもとで運営されている」と解説。そのうえで統計資料を用いながら、民族や文化、宗教の違いを超えての共存に焦点を当てた。現在10カ国が加盟するASEANには、仏教のみならずキリスト教国（フィリピン）やイスラム教国（インドネシア）があり、互恵関係を維持している。「アジアでの紛争解決手段は平和的という決まりがある」とし、その非暴力的な解決方法を評価した。

EU（欧州連合）に加盟する28カ国はすべてキリスト教が主流であることを考えると、多様性を尊重し共存するASEANおよびアジアと、その根底にある仏教など東洋思想に注目した講演となった。

## トピックス②

### ラリット・バクシー氏、世界青年仏教フォーラム会長からの提案



国連ウェーサクの国連決議やその後の運動を主導してきた一人がインド出身のラリット・バクシー氏である。世界青年仏教徒フォーラム会長、ICDVの要職も務める。バクシー氏は「最初の頃ニューヨークで行われた際は数人規模でした。それが80数カ国参加と、確実に運動が広がっています。一年に一度、世界の仏教徒が集う場がある意義は大きい」と手応えを口にする。

これまでさまざまなテーマが設定されてきたが、「ハウ・トゥ・リブ(いかに生きるか)」という発言が多かった。しかし年を重ねるに連れ、具体的な問題を討論するようになった。今回は教育や環境問題などでした。それも各国のリーダーが言及しているのです」「それに世界の仏教系大学が参加しての共通テキスト(経典)についても本格化していることも大きな成果と言えます」と語る。

そして世界の仏教事情に通じているバクシー氏は、日本仏教の参加と奮起を期待する。

またバクシー氏は過去の式典のテーマを振り返り今後の国際会議でのテーマのご提案を呼び掛けた。

#### 過去の会議テーマ

- 2005年 ■ 仏教組織、仏教教育、仏教の布教、仏教の保存、仏教と社会福祉
- 2006年 ■ 世界平和と持続可能な発展のための仏教徒の戦略についての展望
- 2007年 ■ 良き統治と発展への仏教徒の貢献
- 2008年 ■ 公正で民主的で文明的な社会の建設に対する仏教徒の貢献

- 2009年 ■世界危機への仏教徒の対応
- 2010年 ■世界の回復 — 仏教的展望
- 2011年 ■社会経済開発における仏教の力
- 2012年 ■人類の幸福にとっての仏陀の成道
- 2013年 ■教育と国際社会の一員であること — 仏教的展望
- 2014年 ■ミレニアム開発目標達成への仏教的視座
- 2015年 ■仏教と世界の危機